

日本産コガネムシ研究史(6)

高橋 寿郎

1930年代より1945年迄(終戦時)の研究

1930年以後終戦時迄(1945年)の間は日本産コガネムシ類の再検討時代で多くの新種の発表もあれば整理もおこなわれた時期でもある。

特に故松村松年博士の糞虫類の研究と沢田玄正博士による一連の日本産食葉コガネムシの研究はこの時期における代表的な研究ということが出来る。

1930~1931; 横山桐郎, 日本の甲虫(正・続)

(西ヶ原刊行会版)

ようやく日本のコガネムシ否甲虫類全般について或る程度の研究がおこなわれ一般にどんな甲虫が日本にいるかを知らしめようという気運が生れてきた。そしてその目的のため原色図鑑の出版が始った。数年の間に数種の図鑑の発行があった。それぞれの時代での正しいとされる同定に基く図鑑であるが、甲虫全般を記す関係上個々の種については可成りの誤もふくまれそれ等を一々検討していくことはここでは省略したい。分類学上からの功績ということになると別に新種の記載をふくんでいるわけでもなく分類学的検討を加えているわけでもない。そういった意味からは本報文の主旨から省くべきかも知れないが啓蒙的な意味での研究史上の一つの意義ありと思ひ以下書名のみ記すことにした。

1931; 松村松年, 日本昆虫大図鑑(刀江書院版)

1931; 松村松年, 日本通俗昆虫図説, III(春陽堂版)

1931~1934; 三輪勇四郎, 大日本鍬形虫科の種の研究
台湾博物学会々報, XXI, pp. 315~326,
1931., XXII, pp. 87~97, 123~132,
1932., XXIII, pp. 353~371, 1933.,
XXIV, pp. 317~332, 1934.

この研究は4年間にわたり5回に別けて発表されたものであるが、当時の大日本即ち台湾、朝鮮をもふくみ現在の日本産という意味からすれば相当異なるが、図も豊富で日本産クワガタムシの研究としては貴重な文献であり、当時の日本産の目録並びに文献目録も重要である。

従来 Aesalinae 亜科にふくまれていた Ceruchus 属を模式属として Ceruchinae 亜科を本報文上で創設された。現在の日本産クワガタムシとしては21種に就いて解説をされている。学名は現在では変っているものが多い。ここには注意すべき点に就いてのみ説明しておく。

XXI, p. 323. Rhaetulus 属は Lucaninae 亜科にふ

くまれるべきでないとして新に Rhaetulinae 亜科を本報文で創設されたが、現在ではやはり Lucaninae 亜科として取扱われている。XXII, p. 94, Neolucanus saundersi Parry, この記載に用いられた標本は当時何処に保存されているかわからないむね記されてある。現在奄美大島に産する。

p. 97, N. insuralis Miwa, 1929年に石垣島産にて記載された種。

p. 126, Psalidoremus motschulskyi Waterhouse, マレー諸島, 台湾に分布するとの記録であるが、現在西表島に分布する。マレー諸島に分布するのは別種ではないだろうか? 属名は現在 Metopodontus.

XXIII, p. 356, Eurytrachelus platymelus Saunders. 現在は Serrongnathus 属で上記学名のもは支那産原亜種で日本産は5亜種にわけて取扱われている。

XXIV, p. 322, Nicagus japonicus Nagel. 現在は Family Trogidae に入る。

1932, Balthaser, Aphodius haroldianus n. n. fur Aphodius apicalis Har.

Ent. Nachrbl. VI, pp. 1~7.

1861年 Harold が Aphodius apicalis として発表した種を本論文(p.2)で Aphodius (Colobopterus) haroldianus と命名して発表している。

1932, 湯浅啓温, ピロウドコガネ類3種の学名
昆虫, VI, 3, pp. 115~118.

この当時の日本産コガネムシ類の同定の基礎になるものは新島・木下両氏の“こがねむしに関する研究報告”(1923, 1927)であった。その中で取扱われているピロウドコガネ類3種の学名を検討されたのが本報文である。即ちアカピロウドコガネ Autoserica (Maladera) japonica Mots. は Aserica castanea Arrow であると——現在 Maladera (Aserica) castanea Arrow. Motschulsky の Serica japonica ——現在 Maladera (Aserica) japonica は新島・木下両氏の Serica (Maladera) orientalis Mots. のことであり、同じく新島・木下の Serica salebrosa Brenske は Arrow が orientalis Mots. のシノニムとして認めており Serica orientalis となる——現在 Maladera (Aserica) orientalis.

1932, 湯浅啓温, アカピロウドコガネ属名

昆虫, VI, 5/6, p. 301.

Arrow (1927) の研究により湯浅 (1932) は *Autoserica* は *Aserica* のシノニムとして取扱ったが、1932年発表の E. A. Chapin の “*Autoserica Brenske pro Aserica Lewis*” (Proc. Ent. Soc. Wash., 34: 122~124) に基き Arrow の *Aserica* が *Autoserica* のシノニムである (Lewis の *Aserica* は *Serica* のシノニム) とされている現在では *Maladera* 属として亜属 *Aserica* として取扱われている。

1933, 神谷一男・安立綱光, 原色甲蟲図譜 (三省堂版)

1933; 平山修次郎, 原色千種昆虫図譜 (三省堂版)

1933; 加藤正世, 分類原色日本昆虫図鑑, 第八輯 (厚生閣版)

1933; 加藤正世, 昆虫図譜 (I)

昆虫界, I (2): 156~161, pl. 9.

1934; 加藤正世, 昆虫図譜 (VI)

昆虫界, II (7): 61~67, pl. 46.

ともに機関誌に原色で発表されたもので前の図鑑と同じ考えで良いと思う。(I)には16種, (VI)には14種の図説があるが日本産以外の種もふくまれている。

1934; S. Matsumura, Insects collected at the foot of Mt. Yatsugadake and its environment.

Ins. Mats., IX (1/2): 60~80.

表題のごとく八岳山麓の昆虫の記録であるが、その中で次の5種のコガネムシの新種記載がある。全部現在では他種のシノニムとして取扱れる。

p. 65, *Aphodius (Acrossus) koichianus* = A. (*Trichaphodius*) *ecoptus* Bates. p. 66, *Oniticellus yohenai* = *Liatongus phanaeoides* (Westwood) var. *yohenai*. p. 67, *Onthophagus koichii* = *Caccobius jessoensis* Harold. O. *minokuchianus* = O. *bivertex* Heyden. p. 68, O. *shinanensis* = O. *bivertex* Heyden.

1934; Balthasar, Neue Coprinen-Arten und Abarten Ent. Blätter, 30, pp. 146~149.

p. 146 に *Copris frankenbergeri* Balthasar なる新種が日本 (Insel Kosaka!) から記載されている中根猛彦博士によると *C. acutidens* の大型のものとよく一致するとのこと (1955). その後 Balthasar 博士自身中根博士の御考えのように取扱っておられる (1964).

1935; W. D. Hincks et J. R. Dibb, W Junk Coleopterorum Catalogus, Pars. 142, Passalidae, pp. 1~118.

本書は世界のクロツヤムシ科の目録であるが、日本産は1種しかふくまれている。

1935; 加藤正世, 主要金龜子科の分類

(1) 昆虫界, III (2): 108~117.

(2) 昆虫界, III (3): 158~162.

(3) 昆虫界, III (17): 283~289.

(4) 昆虫界, III (18/19): 342~349.

新島・木下両氏の研究並びに Arrow の研究を基礎として当時の日本産 (台湾・朝鮮をも含む) のコガネムシの目録であるが、食葉コガネ類ばかりであり従来の知見をまとめたものである。現在からすれば相当変ってきているが、当時としては大変便利なものであった。

1935; Balthasar, V., *Onthophagus-Arten Chinas, Japans und der angrenzenden Länder*

Fol. Zool. Hydrobiol. VIII, pp. 303-353.

本報文は旧北区のダイコクコガネ類 (*Scarabaeiden*) の研究 (30) として発表されたもので、表題の如く支那、日本及びその隣接地域の *Onthophagus* の概説である。この中で7新亜属、13新種、1新亜種の記載がある。*Onthophagus* 属を亜属に別ける方法は現在吾々としては採用していないが多くの標本を見ればこの様に亜属に別ける方が良いのかも知れない (細分主義では困るが) 従って日本産のものもこの新亜属として取上げられている。13新種は全部支那産であるが1種のみ支那、日本産として *Onthophagus (Phaneomorphus) Černyi*, pp. 312~313 として記載されている。ただし残念なことこの種は現在 O. *ater* と同一種として取扱れている。新種記載の後で支那・日本およびその隣接地域の *Onthophagus* の検索表がまとめられ日本産8種がふくまれ、この報文で日本産として取扱れていないが、現在の日本にも分布している4種 (*solivagus*, *tricornis*, *bivertex* これは亜種 *minokuchianus* を産す, *olsoufieffi*) がある。

1935; 三輪勇四郎, 奄美群島の甲虫類

関西昆虫学会々報, No. 6, pp. 11~30, pl. 3 & 4.

新種の記載があるだけでなく分類学的検討も加えられていないのであるが、その当時の奄美群島のコガネムシ相をまとめたものとしてまた美しい原色図でそれ等を紹介した報文として忘れられないものの一つである。

1936; Balthasar, V., *Monographie der Subfam Troginae der paläarktischen Region*

Festschr. 60, Geburt, Prof. Dr. E. Strand, I, pp. 407~459.

Embrik Strand 教授還暦記念論文集として1936~1939の間に5巻発行されたが、Balthasar 博士の旧北区のコブスジコガネ亜科のモノグラフはその第1巻 (1936・X・17発行) に発表された。旧北区なる故当然日本産がふくまれると思われるが現在この文献所有していないのでいかなる種に就いて記されているのか不明である。

(25-III-1974)